

第46回 只見町文化祭

只見町文化祭

「只見の再発見」～受け継がれる遺産～

第46回町文化祭は、11月3日に町民体育館と只見振興センターを会場に開催され、雨の中約1,500名が来場しました。

今年「只見の再発見」受け継がれる遺産」というテーマが掲げられ、メインコーナーには町内で発見された南北朝時代の歴史書「神皇正統記」の写本が、初めて一般公開されました。来場者はその写本について、担当者から熱心に説明を聞き、併せて町内寺社仏閣調査の発表も見学していました。また、東洋大学の久野俊彦先生による「黒谷の村医者原田家と天正十五年神皇正統記」の歴史書講

演会が行われ、多くの方が只見の遺産について学んできました。

メインコーナー以外では、町内の保育所から大人までの絵画・書・写真などの作品が展示された芸術コーナーや、俳句作り、つる細工体験、妊婦・高齢者体験、ゼンマイ綿ストラップ作り体験など様々な種類の体験コーナーが設けられ、大人から子どもまで多くの方が体験していました。

そして今年は、日本大学工学部(郡山市)の皆さんによる、只見町の町づくりの研究で、只見らしい景観調査が行われました。調査では、大学生が撮



▲初公開された「神皇正統記」の写本



▲(写真/開会式)雨の中ピロティで力強い鼓笛を披露した朝日小学校鼓笛隊の皆さん

▼私の自慢のごはんコンテスト受賞者の皆さん



▼手芸コーナーでは、ミニバックやキーホルダー作り体験ができました





▲只見線をイメージしたジオラマなど子どもから大人まで人気だった只見線応援コーナー



▲福島国体で使用した楽器(サクソ・トランペット)を20年ぶりに修理して演奏が行われた、小・中・高校生5名によるミニプラスバンドコンサート。フルバンドを目指し、その途中成果が発表されました。



▲野球教室で子ども達の指導にあたった早坂貴光さん(右)



▲朝日小学校2年生による昔語りを披露した民話茶屋



影した108枚の只見らしい風景写真の中から、来場者に数枚選んでいただき、「只見らしさ」を調べていました。今回の調査は、中心市街地活性化事業の景観デザインに活かされていきます。

別会場の只見小学校体育館では、宮城県東北高校で甲子園に出場され、現在は指導者として活躍されている早坂貴光さんと福田正文さんによる野球教室が開かれ、町内の小・中学生14名が参加し、生徒達の筋力レベルに合わせた体の



▲人材育成第7期生による「介護体験」で、こぶし苑の馬場さんから介護指導を受ける参加者の皆さん

▲只見らしい景観の調査を行った日本大学工学部の皆さん

使い方や、バッティング指導などが行われました。

他にも、只見高校のPRコーナーや民芸品コーナー、チャレンジコーナーなど多くの催しが行われ、訪れた方々は町の文化や歴史、芸術にふれることで、メインテーマ「只見の再発見」を感じていくようでした。

また今回、交流35周年を迎えた千葉県柏市永楽台地域ふるさと協議会の皆さんが会場を訪れ、只見町と柏市の交流が図られていました。

只見町文化協会 第21回芸能発表会

11月13日、只見町文化祭事業の一環で「第21回芸能発表会」(只見町文化協会主催)が、季の郷湯ら里で開かれました。出演団体は、宝生流只見謡曲研究会松楓会、コーラスはなみずき、瞳の会、只見音楽研究会、はぎの会、只見民謡会、只見つくし会、蒲生花輪踊り保存会、天領只見仙嶽太鼓保存会の皆さんで、美しい歌声や華やかな舞踊、迫力のある演奏などが披露され、訪れた方々を魅了していました。

